

植物－２ クチナシ

花期は6～7月、花は白色で芳香ほうこうがあります。やや乾燥した丘陵地きゅうりょうちの照葉樹林内に生育します。庭木としてよく栽培され、栽培品は花が大きく径6～7cmあります。

クチナシはオレンジ色の長さ3～4cmほどの楕円形の実をつけます。この実は無毒なので、きんとんやたくあんの染料をして使用されてきました。また、果実を乾燥させたものを山梔子（さんしし）または梔子（しし）といい、古くから神経痛やしもやけの薬として用いられてきました。

クチナシの名前は、果実が開裂かいれつしないので、クチナシ（口無し）から名付けられたといわれます。また、宮崎県を代表する工芸品こばんに碁盤あしがありますが、碁盤の脚はクチナシの実をかたどっています。これには「勝負に第三者の口出しを許さない」との意味が込められています。

